MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No.80

発行日■平成22年11月　発行■東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16　TEL. 018(836)2192

ホームページ ● http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

白神山地世界遺産地域（緩衝地域）での巡視活動（詳細は２ページで紹介）

トピック

特集
「国有林モニター現地見学会を開催」
企画調整室

美しい森林づくり（地域発案システムの取組）
「地域と連携した森林生態系保護地域の保全」
置賜森林管理署

我が署の隠れた名所
「侍浜マツ巨木を育む森」
三陸北部森林管理署久慈支署

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

国有林モニター現地見学会を開催

林野庁では、国民の意見を反映した国民のための森林づくりを進めるために、国有林モニター制度を設けており、当局においても福島県を除く東北五県にお住まいの四十七名の方に国有林モニターとして、会議やアンケートなどを通じ、ご意見をお伺いしています。

白神山地世界遺産地域の概要説明

こうした取組の一環として、十月十四日（木）に二十名のモニターの皆様にご参加いただき、白神山地世界遺産地域である秋田県藤里町二ツ森等において、国有林モニター現地見学会を実施しました。

現地見学会では、国有林野事業の理解や今後のモニター活動に活かしていただくため、白神山地世界遺産地域の一日巡視員を体験していただきました。

委嘱状の交付

午前中は、能代市の米代西部森林管理署において、佐藤藤里森林センター所長による白神山地世界遺産地域の概要及び巡視活動に関する説明をお聞きいただいた後、栗林署長から「一日巡視員」の委嘱状の交付を受けました。その後、八峰町の「八森ぶなっこランド（森林科学館）」において、白神山地世界遺産地域巡視員の工藤英美氏から、白神山地における巡視活動に関して実体験を語っていただき、参加されたモニターの方は熱心に聴き入っておられました。

工藤氏の説明に聴き入る参加者

午後からは、巡視活動での留意事項やブナ林の成り立ち・生息する動物などの話に耳を傾けていただきながら、二ツ森登山道において巡視活動を体験していただきました。参加されたモニターの方からは、森林情報ポストの利用方法や青森県側と秋田県側の入山に対する手続きの違い、マナー違反者に対する対応などについて質問をいただきました。

巡視活動の体験

好天に恵まれたこともあり、世界遺産地域（緩衝地域）における紅葉したブナ林、白神岳や向井白神岳といった青森県側の世界遺産地域の眺望も満喫していただき有意義な一日となりました。

モニター便り

青森市　鈴木朝子

私は、偶然地元の広報物を見て、このモニターというものがあることを知り、大学時代に森林に馴染みがあったことから、応募してみようと思いました。モニターになっての感想は、毎月送られてくる刊行物を見て、自分にも参加できるかもしれないと思える一般市民が参加した森林関係のイベントなどが自然と目につき、参加したいなぁと感じたことです。

それは、このモニターになったことで知り、見るようになった管理局のＨＰを見ても同じで、イベント情報などを見ていました。そして東北各地で、ボランティアなどが行われていることを知ることができました。

ところで、今年は異常気象ともいえる暑さが続き、私の住んでいる青森でもこんなに暑かった夏はないんじゃないかと思うくらい、身をもって地球環境の変化を実感しました。以前よりも環境問題などが注目されてきていることは確かです。それは森林においても同じで、私たちが森林に期待することも多種多様になってきており、ボランティアの活動も、森林保全から環境教育、また地域活性化など様々で、これからもっと森林に期待する意識は高まると思います。

ただ、いざ森林に行くとなると、近くでのごみ拾いやエコバックなどとは違い、それなりの準備が必要で、多少のお金もかかることは確かです。また多少の危険も伴うので、専門の人が必要になるかもしれません。

私は、森林ボランティアやイベントに参加してみたいなと思い、ネットなどで調べましたが、なかなか参加できそうなものは見つけることができないでいます。おそらく私たちの多くは森林などに興味はあるものの、なかなか参加できる機会をうまく見つけられずにいるのだと思います。それぞれが単独に動くのではなく、ＮＰＯやボランティア団体、行政などが緊密な関係になれるように、話し合う場を増やし、できるだけ一般市民の目線で、また、耳に届くように情報提供を今まで以上に行ってほしいと思っています。

どうしても、私たちは生活に迫られたりして目先の物事に時間やお金を割いてしまうのは当然なのですが、後世に渡って豊かな生活ができるように、一度立ち止まって考えてみたりすることも必要なのではないかと思います。そのきっかけとして、森でのイベントなどに参加することで、それぞれ何か心で感じるものや、ゆとりが生まれるのではないでしょうか。近い将来、子供を育てていく私たち若い世代の意識が、より環境や森林、国有林といった大切な財産について考える機会が今まで以上に多くなればと思います。

祝 仁別森林博物館　来館者が10,000人突破

10月９日（土）、仁別森林博物館の来館者数が、平成20年５月のリニューアルオープンから数えて記念すべき10,000人を突破しました。10,000人目の来場者となったのは、親子で来館された秋田市内の小学一年生亀谷宗史（そうし）君です。亀谷さん親子は、達成を待ち望んでいた職員に「10,000人目の来場者となりました。おめでとうございます。」と声を掛けられるとビックリしていました。その後の式典で、10,000人達成の記念品を受け取り、案内人会の皆さんや職員と一緒に記念撮影をした宗史君は、思いがけない出来事に大変喜んでいました。なお、森林博物館は、11月３日から冬期閉館となりましたが、来年５月に開館を予定しています。

美しい森林（もり）づくり

（地域発案システムの取組）

地域と連携した森林生態系保護地域の保全

置賜森林管理署

当署管内には、日本百名山に数えられる山々やブナ林をはじめとする原生的で豊かな自然を残す山岳地帯を有することから、森林生態系保護地域をはじめとする保護林が多く設定されています。

近年、この地域を訪れる多くの入山者による踏み荒らし、盗掘による高山植物群落や湿原の荒廃が懸念されており、当署では、これら保護林の適切な保全のため、地域の様々な立場の関係団体・機関が連携して課題に取り組むことができるよう、保全管理の枠組みを設けています。

今回は、これまでに行われた森林生態系保護地域の保全管理に関する会議と、その保全活動について紹介します。

●森林生態系保護地域の特徴

平成四年三月に設定された「飯豊山周辺森林生態系保護地域」は、日本海型気候がもたらす豪雪により、標高が低いにもかかわらず高山帯のような低木化した落葉広葉樹林やササの草原が続く「偽高山帯」が広がり、イイデリンドウ等希少植物も分布しています。

また、麓には「温身平森林セラピー基地」があり、飯豊連峰への登山者も含め多くの利用者がこの地に訪れています。

平成七年二月に設定された「吾妻山周辺森林生態系保護地域」では、ブナ群落、アオモリトドマツ群落、湿原群落や雪原草原など多様な景観を形成し、豊富な高山植物が見られます。

また、平成十五年三月に設定された「朝日山地森林生態系保護地域」には、深く広大なブナ林が広がり豊かな生態系を育む原生林を擁しています。

飯豊連峰合同保全作業

飯豊山の保全に関する会議

●保全に関する会議等

森林生態系保護地域の保全に関しては、連絡会議等を設け、学識経験者、関係行政機関や地元関係団体等と連携を深め、荒廃の予防、公益性を考慮した人為による荒廃箇所の植生回復などの保全事業を展開してきました。

今年度の飯豊地域の保全に関する会議では、

①荒廃した高山植生を回復させる「合同保全事業」への協力依頼

②登山道周辺植生等の保全

③各団体の事業予定

等が課題として検討されました。

一方、吾妻地域の保全に関する会議では

①湿原荒廃箇所について意見交換

②高層湿原の一つ「弥兵衛平湿原」の植生回復活動への協力依頼

③植生保全活動の各団体の取組報告

がなされました。

●連携した各団体の保全活動

これらの会議での議論を基に、森林生態系保護地域における保全活動を行うボランティア団体をはじめとする各種団体の活動について当署も側面的な支援を行っています。

●当署における活動

当署においても、森林保護員（グリーンサポートスタッフ）を中心に、誘導ロープの設置、啓発看板の設置、高山植物保護を啓発するパンフレットの配布等を行っています。この活動によって、当署や国有林への理解もいただいているところです。

最後に、当署では引き続き、関係機関との連携を通じて森林生態系保護地域の保全管理を進めるとともに、温身平や吾妻巨木のナラ枯れ等の保全についても進めていきたいと考えています。

吾妻山系弥兵衛平植生回復

コラム　森のお話

林木育種の低コスト造林への挑戦
～その１　よいタネ・よい苗で儲かる林業へ～

森林総合研究所　林木育種センター　東北育種場
星 比呂志、宮下 智弘、織部 雄一朗

近年、合板用を中心に国産材の需要が急増し、自給率が約28％まで回復しています。昨年12月に策定された森林・林業再生プランでは10年後の自給率を50％までに高めることが目標とされています。東北地方は、スギ木材の一大供給地で全国の1/4を生産しています。しかし、林業経営は厳しく、林地からの木材収入が１ヘクタールあたり約100万円であるのに対し、地拵え・植え付けから間伐までの造林・育林コストは200万円近くで、大幅な支出超過になっています（図１）。

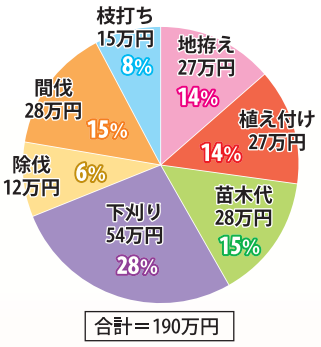


図１　民有林における造林・育林コスト
（東北各県の標準単価から作成）

このため、森林所有者・経営者の意欲が減退し、再造林が低調となっています。自給率向上には造林育林コストをどれだけ削減し、経営を改善するかが重要です。

東北育種場では、関係機関と連携して、低コストで木材を生産するための、以下の取り組みを進めています。

(1)初期成長が早い品種の選定とキャビティーコンテナによる短期育苗技術の開発

東北地方では、およそ６回下刈を行っており、その経費は全体の約３割を占めています。苗木の初期成長が早ければ、下刈り回数を減らすことが出来、大きな経費節減になります。

東北育種基本区（東北森林管理局管内に新潟県を加えた地域）からは714本のスギ精英樹が選抜され、その成長成績が官民あわせて343箇所の検定林で評価されています。精英樹の中から初期成長に優れ、壮齢期の成長も優れている品種を選抜しました。この品種のコンテナ苗（注）を用いれば、下刈りを現状の６回から２回程度に省略でき、植え付け経費も半分程度になることで、45万円～70万円の経費節減が出来ると試算しています（図２）。

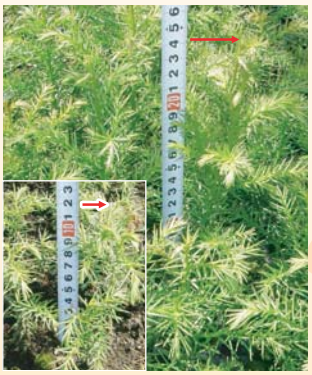


写真１　播種後７ヶ月目の苗畑苗(a)とコンテナ苗(b)の成長
（矢印は苗木の先端の位置）

また、材積ベースで３割程度の増収が期待できます。これらの試算を実証するため、コンテナ苗のトップランナーである宮城県農林種苗農業協同組合と共同研究を行っています（写真１）。

（注）根が真っ直ぐにまとまった形状のため、初期成長が良く植え付けが効率的といわれています。

(2)成長が格段に優れた次世代品種（超優良品種）の開発

東北森林管理局管内には、成長が優れた品種を母樹とした実生苗や成長が優れた品種同士の人工交配による苗木で造成した検定林が109箇所設定されています。これらの中には、成長が格段に良く、材質も優れた個体があることが知られています。山形森林管理署最上支署管内の東秋局46号検定林の例では、優良個体は一般造林木に比べて単木材積で80％、林分材積で350％増しの成績です（写真２）。

これらを選抜し、初期成長を早期に検定して品種を開発し、ミニチュア採種園で短期に生産することを計画しています。

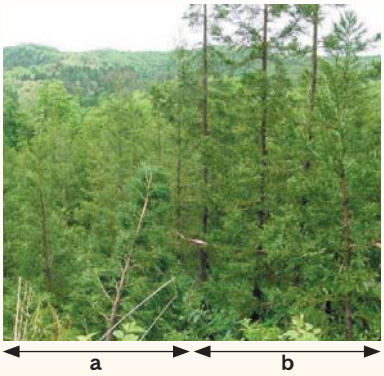


写真２　東秋局46号検定林における一般造林木(a)と検定木（精英樹同士の交配苗）(b)の比較（植栽後11年目）

超優良品種をコンテナ苗で生産し造林することで、下刈りを無くし、植え付け経費も削減することで、60万円～90万円の経費節減を試算しています（図２）。

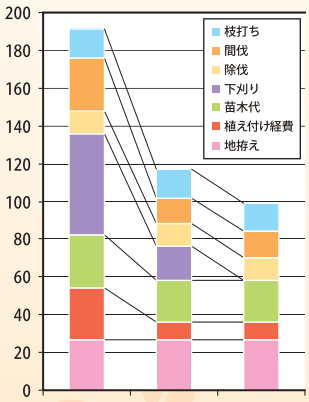


図２　品種ごとの造林・育成コスト(a)これまでの品種、(b)初期成長優良品種＋コンテナ苗2,000本、(c)超優良品種＋コンテナ苗2,000本

今後は、これらの品種やその育成技術の開発を進め、また、育林や素材生産といった関連分野との連携を強めることで、さらなるコスト削減への取り組みを進めることにしています。

次回は、具体的な取り組みについて、詳しく紹介します。

各地からの便り

低コスト林業を目指して 現地検討会を開催

三八上北森林管理署

十月十四日(木)、当署と三八・上北流域林業活性化センターの共催により、「低コスト林業の推進に向けた現地検討会」を、十和田市奥瀬字上指久保国有林内において開催し、県民局職員、市町村関係者、森林組合・林業事業体等の林業関係者約百四十名が参加しました。

今回で五回目となる現地検討会は、木材市況の低迷などから間伐が進まない現状を踏まえ、伐採・搬出作業等の低コスト化が最重要課題であると捉え、高性能林業機械及び低コスト路網の普及と効率的な作業仕組みの定着を図ることを目的に実施しました。

ハーベスタによる作業

午前の現地検討会では、上北森林組合の作業現場で、①低コスト路網作設の考え方、②ハーベスタによる伐倒・枝払い・造材作業、新型の欧州型フォワーダによる運材作業を見学し、意見交換を行いました。

午後の勉強会

午後の勉強会では、①東北森林管理局の担当者より低コスト路網と作業システム、高性能林業機械の導入状況などについて、②上北森林組合より民国連携間伐事業の紹介、③青森県の担当者より青森県で実施している低コスト間伐モデル事業についての説明がありました。

今回の検討会を通じ、高性能林業機械及び低コスト路網の普及や効率的な作業仕組みによる事業の低コスト化がさらなる間伐の推進に繋がることを期待して、今年度の現地検討会を終了しました。

新型フォワーダ「F801」による運材作業

由利森林管理署

秋田県内の林業関係者が一堂に会した「低コスト木材生産技術現地検討会」が、九月八日(水)、当署管内を会場に開催されました。

今回の現地検討会は、「労働生産性の向上と生産コストの低減」をテーマに、当署が主催し、東北森林管理局及び子吉川流域林業活性化センターの共催で行われ、秋田県由利地域振興局や由利本荘市、県内の林業事業体・森林組合、森林管理署等から七十八名が参加しました。

第一部では、堀川林業㈱が請負事業を行っている列状間伐箇所において、低コスト作業路作設と高性能林業機械を組み合わせた作業システム（別表）を視察し、作業仕組みと柔軟な人員配置等について検討を行いました。

作業仕組みと人員配置等について検討

午後からは第二部として、会場を由利本荘市アクアパルに移し、東北森林管理局販売課企画官より「低コスト作業システムの構築に向けて」と題した講演が行われました。

その後の意見交換では、「低コスト作業路作設は、林地保全のため重機の重量基準を定めるべきでないか。」「高性能機械の購入、修理代などの維持費が高額である。発注の積算単価に反映されているのか。」「森林・林業再生プランが目標とするヨーロッパ並の生産性は、制度の根本が違うのではないか。」など、活発な発言がありました。

（別表）作業仕組み

作業路作設	バックホウ	0.45㎥級／1台
立木伐倒	チェンソー	／2台
集材・積込	グラップル	0.45㎥級／1台
造材	プロセッサ	0.45㎥級／1台
運搬	フォワーダ	4t級／1台
巻立	グラップル	0.45㎥級／1台

最後に、当署長から「数年でヨーロッパ並みの生産性を確保するのは難しいと思うが、このような現地検討会を継続して実施する中で、国内の先進的事業体を手本に努力を積み上げることが大切」とのまとめがあり検討会を終了しました。

活発な発言があった意見交換会

民国連携による「地域森林整備協定」を締結

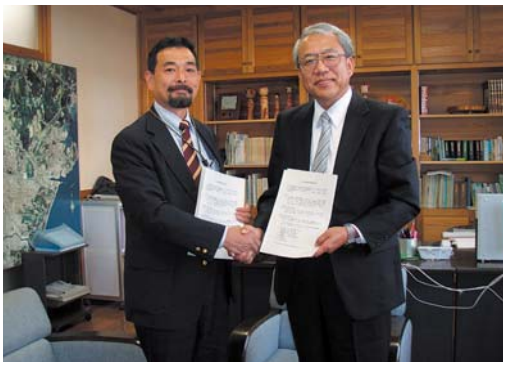
仙台森林管理署

十月一日（金）、仙台森林管理署と古河林業株式会社七ヶ宿林業所との間で、東北局管内初の民国連携による地域森林整備協定を締結しました。

この協定は、協定者が連携して、隣接する国有林と社有林において効率的な作業路網の開設や間伐等の森林整備に取り組むもので、森林の多面的機能の高度な発揮を促すとともに、低コストによる森林資源の搬出・利用等の促進により、地域における森林・林業の活性化に資することを目的としています。

協定区域は、七ヶ宿町内の嶽家老国有林三六八林班と古河林業株式会社社有林の大深沢一〇一、一〇二林班を併せた約二百二十五haの森林です。

木材生産の低コスト化、間伐の推進のためには路網整備が必要ですが、地形・土壌等の条件から整備が進まず、間伐等の森林整備が滞っている箇所も多く、国有林と民有林との連携による間伐団地の設定や路網整備が近年の課題となっています。当署においては、他局管内では既に複数の取組事例が見られることから、今回協定締結した本地域をモデルとして、さらに連携可能な地域を検討していきたいと考えています。



連携した森林整備への取組に向けて

また、本協定に基づく計画的な路網整備と間伐の推進による森林整備によって発生する間伐材は、積極的に搬出・利用することとしており、間伐材の有利販売や事業発注時期の調整等も今後の検討課題としてとらえているところです。

仁別自然休養林で「清掃活動」を実施

指導普及課

アサヒビール株式会社秋田支社、仁別森林博物館ボランティア案内人会及び当局は協定を締結し、平成二十年八月から仁別自然休養林（仁別国民の森）において、体験型森林環境教育等を通じて、自然や森林の大切さを多くの人に知ってもらう取り組みを春と秋の年二回行っています。十月九日（土）には、太平山登山道の清掃及びその周辺の刈り払い作業を行いました。

当日は、あいにくの小雨模様の中、アサヒビール秋田支社の

社員、案内人会の会員、局職員ら二十五名が二組に分かれて活動を行い、草刈りを行った登山道入り口の四阿付近は、二時間程で見違えるようにきれいになりました。また、登山道のゴミ拾いには往復三時間程かかりましたが、登山者のマナーが向上していることもあり、ゴミはほとんど見あたりませんでした。

昼食後には、来年度の仁別森林博物館周辺の樹木園の充実を図る活動にそなえて、クヌギの苗づくりを参加者全員で行いました。

最後に、この活動は、平成二十四年度まで計画されており、今後とも仁別自然休養林の森林保全活動を盛り上げていくことを確認し、解散しました。

参加者全員での記念撮影

ミニコラム

へぇ～そうなんだ

ヤマウルシ・ツタウルシ・ウルシ（ウルシ科）

岩手北部森林管理署技術専門官
松尾　亨

今年の紅葉はいかがでしたか？今回は紅葉シーズンを彩るウルシ３種類を紹介します。

初めに野山でよく見かける「ヤマウルシ」は、３ｍ～８ｍくらいの高さで太さも20㎝くらいです。複葉で小葉が６～８対、秋に黄色から橙になり最後は真っ赤に染まります。

次に我々の仕事でやっかいなやつ「ツタウルシ」は、樹木や岩に気根を出して絡みつき３枚の複葉を互生させるのが特徴です。秋一番に真っ赤に紅葉するので特に目立ちます。漆に弱い人は素手でさわるのは禁物、ウルシオールの成分でかぶれます。

ヤマウルシ

ウルシの実

最後の「ウルシ」は漆の樹液を採取するために、栽培されている外来種です。葉も大きく50cm以上の大型で奇数羽状複葉です。中国やヒマラヤが原産地とされています。秋には黄色～茶色となり他の２種より少し見劣りします。

ツタウルシ

東北地方は、縄文時代の遺跡からも漆塗りが出るので、古くから栽培に向いていた様で、接着材や装飾の目的で使われていたみたいですね。岩手県二戸市は漆の樹液生産量日本一の産地です。japanの語源は「漆」のことで、海外では漆の国として名をはせています。岩手北部署管内には、この地方特有の「漆の実コーヒー」や「浄法寺塗り」などの名物もあるので遊びに来てみてはいかがでしょうか。

ウルシ

産業近代化遺産が残る町より

米代東部森林管理署
濁川森林事務所
今野和之

私の勤務している濁川森林事務所は、秋田県の北東部にある小坂町にあり、平成21年に小坂・濁川合同森林事務所として新築されました。そして今年の４月に私が赴任し、合同森林事務所の官舎に住んだ第１号となりました。併任先の鹿角市十和田大湯中滝地区にある止滝森林事務所は、カメムシの巣窟になっていると聞き小坂町に住むことにしました。

私は、この森林事務所で、小坂町の十和田湖等の観光地ではなく国道282号線周辺のスギ人工林を中心とした国有林約5,101haと、鹿角市のこちらも杉人工林を中心とした約3,565haの国有林を管轄しています。

新築された合同森林事務所

まず初めに、小坂町について簡単に紹介したいと思います。

小坂鉱山事務所

小坂町は言わずと知れた鉱山で栄えた町で、現在、鉱山そのものは閉山となりましたが、鉱山隆盛期を彷彿させる「小坂鉱山事務所」、「康楽館」、「天使館」など明治期からの西洋建築物が今も建ち並んでおり、その当時の面影を残しています。

それから、鹿角市の十和田大湯中滝地区です。止滝森林事務所の近くには滝が多く、その滝の名前の一つが森林事務所名になっており、止滝という地名は無いそうです。これらの滝を中心とした森林セラピーロードもありますので、一度、癒しを求め、散策に訪れてみてはいかがでしょうか。

さて平成22年度は、濁川・止滝どちらの部内でも伐採適期に達した人工林が多いことから生産請負事業が盛んに行われています。森林事務所の業務は、収穫調査、造林請負監督、林野巡視等を主として行ってきました。

止滝

その中で、収穫調査は、昨年まで署内に勤務しており、久しぶりの森林事務所勤務によるブランクを解消するのに丁度よいと考え、年度初めからすぐに調査に着手し、予定通り終了することができましたが、複層伐の調査では、将来の姿を考えながら帯状や点状の調査方法を選択するのに苦労しました。

また、小坂町の国有林で収穫調査をしていてやっぱり鉱山の町だなと感じたのは、陥没穴に注意と書かれた看板や作業跡が随所に見られる事でした。私も数々の落とし穴に落ちて来ましたが、小坂の国有林では特に足元に注意が必要です。

それはさておき、森林官業務は沢山ありますが、どこの事務所にも森林官だけでは解決できない懸案事項等があると思います。当部内にも温水が出ている箇所や、不法投棄等の問題があり、無力さを感じる事も多々ありますが、森林を守る上で今出来る最善の策を考えながら慎重に行動し、地元自治体や関係団体の協力も得ながら、国有林の保全にこれからも努めていきたいと思います。

陥没穴注意の看板

我が署の隠れた名所

三陸北部森林管理署久慈支署

近郊で巨木とふれあえる「侍浜マツ巨木を育む森」

海岸から連なる丘陵地帯の久慈市侍浜地区を中心とするアカマツ天然性林は、侍浜マツと称され、成長・形質ともに優良なことで全国的に知られています。

当地は、この形質優良な天然アカマツを保存するとともに、自然の推移に委ねた場合の変化を観察、記録して学術上及び森林施業上の資料とすることなどを目的に、「侍浜マツ植物群落保護林」、「侍浜マツ特別母樹林」に指定し、平成13年には、アカマツの大径木が林立し、優良林分を形成していることから、21世紀へ生き続ける資産として「巨木を育む森」にも指定しています。

7.21haの林内には、樹齢約160年、胸高直径90cm、樹高25m以上に達するアカマツの巨木が林立し、中・下層にコナラ、クリ、ヤマボウシ、ムラサキシキブ等の広葉樹が広がり、ミツバアケビ、ツタウルシが絡み、林床にはマイヅルソウやキバナイカリソウの草本類約100種類が見られるなど、自然環境豊かな巨木の森を、民家が点在するごく身近な場所で気軽に散策することができます。

交通アクセス

☆ＪＲ八戸線侍浜駅から国道45号線方面へ徒歩約５分。
☆久慈支署から国道45号線を北へ約７km、左折し県道149号線を約３分

お問い合せ先

〒028-0001　岩手県久慈市夏井町大崎14-12
電話番号：0194-53-3391、050-3160-5905　FAX：0194-52-2653